

目次

はじめに

第1章 日本語の歴史とは何か

- 1 日本語の歴史を知るということ 12
- 2 いつ日本語が生まれたか 13
- 3 日本語の歴史を知る手がかり 16
- 4 話し言葉の歴史をたどる 19
- 5 日本語史の時代区分 20
- 6 うつりゆく音韻・文字・語彙・文法 24

第2章

奈良時代までの日本語

- 1 奈良時代までの言語と社会―日本語が誕生する 28
- 2 伝来した漢字はどのように使われたか 31
- 3 二種類の漢字音―吳音と漢音 40
- 4 万葉仮名で日本語を書く 42
- 5 奈良時代までの母音と子音 49
- 6 動詞の活用が成立する 60
- 7 形容詞・代名詞が整備される 70
- 8 古代語法が確立していく―付属語と待遇表現 79
- 9 和語とは何か―固有性を検証する 90
- 10 漢語が限定的に用いられる 95

第3章

平安時代の日本語

- 1 平安時代の言語と社会―古典語が完成する 102

第4章

鎌倉時代の日本語

- 2 話し言葉の実態―『源氏物語』を例に 104
- 3 漢文の訓読を書き記す 108
- 4 平仮名と片仮名が誕生する 111
- 5 いろは歌と五十音図 120
- 6 音韻の混同が始まる―母音と子音 127
- 7 アクセントが体系的に知られる 132
- 8 古代語法が完成する 136
- 9 意味の変化とはどういうものか 148
- 10 男性は漢語を、女性は和語を多用する 151
- 1 鎌倉時代の言語と社会―古典語が変容する 160
- 2 言文二途の時代が始まる 163
- 3 音韻の混乱が続出する 167
- 4 古典文法が瓦解し始める 174

第5章

室町時代の日本語

- 5 漢字と仮名がいつそう日本化する 186
- 6 漢語が日本語に浸透していく 189

- 1 室町時代の言語と社会―近代語が胎動する 196
- 2 一六世紀末の話し言葉 198
- 3 現代音に近づく 203
- 4 室町時代のアクセント 208
- 5 近代語法に変容していく 212
- 6 読みやすい表記が広がっていく 228
- 7 外来語が出現する 231

第6章

江戸時代の日本語

- 1 江戸時代の言語と社会―近代語が発達する 240

第7章

明治以降の日本語

- 2 中央語が上方から江戸へ移る 241
- 3 現代音と同じになる 244
- 4 近代語法が確立していく 252
- 5 表記がわかりやすく厳密化する 265
- 6 漢語が多様化する 269
- 7 西洋の言語を翻訳する―新しい日本語の時代へ 277
- 1 明治以降の言語と社会―現代語が成立する 282
- 2 現代表記が確立する 284
- 3 現代語音韻と方言アクセント 287
- 4 現代語法ができあがる 295
- 5 漢語が急増する 299
- 6 多様な外来語が用いられる 312
- 7 日本語はどこに向かうか 317

索引

参考文献

332 320